

2010.5.22

生誕200年 同じ年に生まれた二人の天才
ショパンとシューマン 第4回

プログラム

今年生誕200年を迎えた1810年生まれの二人の天才作曲家、ショパンとシューマンの特集も第4回目になりました。舟歌はテクニク的にも難曲のひとつに数えられますが、旋律の美しさよりも曲の優れた構成や和音の美しさに魅了される佳曲です。ポロネーズはポーランドの代表的な民俗舞曲のひとつですが、ショパンも16曲のピアノ独奏曲を残しました。今日は第1番と力強く格調高い輝かしい曲想で人気の高い名曲、第6番「英雄」をお聴き頂きます。チェロ・ソナタはショパンのピアノ曲以外で最も良く知られた作品で、第3楽章のラルゴはしばしばアンコール曲として演奏されています。

シューマンのヴァイオリン協奏曲は、名ヴァイオリニスト、ヨアヒムに献呈されましたが、封印されたまま1937年ベルリンの図書館で発見されるまで日の目を見ませんでした。淡い陰りを持った響きがシューマン独特のロマン性を引き出して、今日もっと演奏されても良い秀曲です。幻想曲はしっかりした構成の中に幻想的で詩情豊かな響きをちりばめたピアノの名作のひとつ。交響曲第3番「ライン」はシューマン最後の交響曲で、曲全体が明るく活力に満ちあふれていますが、時折見せるほどの暗い響きがまた魅力的です。

ショパンとシューマン、その魅力は尽きません。

フレデリック・ショパン (1810~1849):

舟歌 嬰ハ長調 op.60

イヴァン・モラヴェッツ (ピアノ)

(1993.5.4 サルツブルク、モーツアルテウムでのLive)

チェロ・ソナタ短調 op.65 ~ 抜粋

ジャクリーヌ・デュ・プレ (チェロ)

ダニエル・バレンボイム (ピアノ)

(1971.12/1972.10 録音 EMI)

ポロネーズ第1番嬰ハ短調 op.26の1

シブリアン・カツアリス (ピアノ)

(1993.6.5 オーチャードホールでのLive)

ポロネーズ第6番変イ長調 “英雄” op.53

ダニエル・バレンボイム (ピアノ)

(2010.2.28 ワルシャワ・フィルハーモニーホールでのLive)

*** 休憩 ***

ロベルト・シューマン (1810~1856):

ヴァイオリン協奏曲ニ短調 ~ 抜粋

ヘンリク・シェリング (ヴァイオリン)

オーガン・ドナルク指揮バイエルン放送交響楽団

(1980.1.10 ミュンヘン、ヘルクレスサールでのLive)

幻想曲 ハ長調 op.17 ~ 抜粋

マウリツィオ・ポリーニ (ピアノ)

(1995.6.15 ウィーン・コンツェルトハウス大ホールでのLive)

交響曲第3番変ホ長調 “ライン” op.97

カルロ・マリア・ジュリーニ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

(1990.5.27 ウィーン・ムジークフェラインサールでのLive)

※一部お聴きぐるしいノイズがありますが、ご了承ください。